

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500077		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームいだか		
所在地	〒465-0097 愛知県名古屋市長区平和が丘1-109		
自己評価作成日	令和2年1月25日	評価結果市町村受理日	令和2年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人が変わり管理者も代わり、令和2年気持ちを新たに施設の立て直しをしていきます。家族のように温かい言葉かけをし、家庭的でゆったりとした雰囲気の中、家事等を利用者様と一緒にしながらの会話の中で利用者様の気持ちを受け止め「今したいこと」「したい生活」を目指し、計画を立て支援して行きます。また、中庭の手入れ、老朽化した箇所の修復をするなど環境整備も行っていきます。利用者様の楽しみとして地域の福祉会館を利用し行事に参加したり、喫茶、外食、外出などを計画。食事は「ワンクック食材」を利用し時間を短縮、少しでも利用者様との交流が増えるようにしていく予定です。自治会への加入、施設PRをし地域との連携にも努めていきます。社員の質の向上としては社内、社外研修を勧め、各医療との連携を取り安全、安心に生活して頂ける施設作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームいだかは、閑静な住宅街にある2ニットの事業所である。今年度は運営母体が変わり、それに伴い人事体制の変更や取り組みの見直しが図られている。母体法人は、関西圏に幅広く高齢者福祉事業を展開している。その本社役員と共に、新たに着任した管理者と、書類管理や職員教育等、サービスの質の向上に繋がるよう、運営の改革を始めている。自治会総会への出席、掲示板の掲示物貼り替えや公園清掃へ参加する等、地域の一員としての活動や敬老会、子供会との交流等はこれまで通り継続し、入居者に寄り添い、「共に生きる」の理念の実践に向け、今後の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族主義」をモットーとし、「共に生きる」を基本理念とし利用者のご満足と笑顔を励みに仕事ができるよう、各フロア朝の申し送りに基本理念を読み上げ掲示し徹底している。	玄関の理念の掲示、朝の申し送り時に唱和し、共有している。一人ひとりの生活歴、趣味、好きな食べ物等を把握し、日々の関わりの中から入居者の笑顔を引き出せるよう支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。自治会のポスター張替を担い、自治会活動に協力している。散歩や朝のゴミ捨て時には挨拶をするなど交流するように心がけている。近隣のスーパーや100円ショップなどに買い物に行っている。	自治会に加入し、年1回の総会に出席している。地域清掃、学区の納涼祭の準備や自治会のポスターの掲示を担い、地域の一員として活動している。中学生の福祉体験学習の受け入れも継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会役員の方や民生委員、包括の方にも参加して頂き現状を報告し、理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	可能な限り、運営推進会議で出た意見を施設の向上に結びつけるよう努力している。	自治会長、副会長、民生委員、家族、いきいき支援センターの職員等で構成されたメンバーで年6回開催されている。事業所の現況の説明の他、参加者より、地域の行事、行政主催の事業の案内等運営に役立つ情報交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の疑問や課題は市や区の健康福祉課等に電話し確認や相談をしている。	来年度の運営法人変更に伴い、不明点や相談で市の介護保険課担当者と数回面談を行っている。数名の職員が、市の認知症介護実践者研修に受講中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	半年ほどの間に利用者の入れ替わりが多く、各ユニットの扉を施錠していることがほとんどである。1年前までは身体拘束委員会を3か月ごとに行っていたが現在は行われず、再開をしたいとは思っている。基本的に現在身体拘束をしている方はいない。	現在マニュアルは整備されているが、職員への周知までに至っていない。来年度については年間研修計画に基づいて、研修を行う予定。スピーチロックに繋がる声掛けを見かけた場合は、管理者が取り出して注意をしている。	派遣、パート職員を含む全職員への地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の周知徹底が図られることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のスケジュールに虐待の研修を組み込み職員に参加してもらうか、出席できない職員には資料を渡し学習してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方はおられないが、会議時に研修・勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更や解約、料金改訂の際はその都度ご入居者家族様よりご意見を伺い、理解、納得ができるよう説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、不満、苦情については管理者が直接対応し、ご家族様の対応は電話や面会時にお時間、時間を作っていただくなどしお話をさせていただく様にしている。	運営推進会議、面会時に家族からの意見聴取を行っている。面会になかなか来られない家族へは電話で、事業所からの連絡事項や要望の聞き取りを行っている。月1回お便りを請求書とともに送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	細かな意見を随時聞く様に心懸けている。検討する内容がある時は会議で話合うなどしている。東海支部の会議時にも他管理者の参考意見を聞くなどしている。契約更新時などにも話しをしている。	職員から社長宛の意見箱の設置がある。業務時間、休憩時間にかかわらず、管理者が直接職員の意見要望を聞き取っている。内容によっては個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間のある限り、管理者から部長に報告し話し合っている。いつも前向きな考えを持ち取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から部長へ随時報告している。派遣社員が多いためなかなかまとまった研修が行えず、会議時に代表者が研修を受け、それをプリント化し伝達するようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じサンガグループの管理者会議、機会があれば区の事業所連絡組合主催の会議へ参加するなどし同業者との交流をし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは統括部長が行い、入居前のサービス提供事業所からも情報を得、本人様の意向を伺いケアプランに反省させ支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは統括部長や管理者が行い、ご家族様からみたご本人のお話や困りごと悩みを伺いご相談させて頂いている。その都度電話や面会でも対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に本人やご家族が置かれている状況を把握し、ご要望を何うと共に必要な福祉用具の把握、依頼、利用できる他サービスなどの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事、生活を共にし過ごすことで少しずつ信頼作りをしている。できること、したい事をしていただきできない事をお手伝いし、できたという達成感を味わっていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時などで随時ありのままの現状をお伝えしご家族からも情報を得、少しでも面会時間を増やしていただくためにゆっくり話していただけるような環境作りを心懸けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様からの要望があれば、ご家族に相談し可能な範囲で支援している。お知り合いとの面会、手紙のやり取り、家族との外出、外泊など家族の協力を得て支援している。	面会時間の制限を設けず、いつでも家族や友人の訪問ができるよう支援している。毎月友人と喫茶店に行く、正月に自宅に帰り家族と過ごす等、馴染みの関係の継続ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置、食事やレクをする際、ストレスにならないよう職員が仲介をし配慮している。同フロア、各階合わせてのレクリエーションで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了、亡くなられた方のご家族などには可能な限り関係継続に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が応えられる場合にはご本人にお伺いし、お応えできることはすぐに対応している。ご本人の要望で家族に伝える事があればお話しし、必要であれば相談にのりケアプランに活かしている。	入居者の日頃のつづやきを支援経過に記録し、職員間で共有している。家族の意向と本人の意向に相違がある場合は、本人本位を検討し、思いの代弁を行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴、生活環境が分かるように独自の生活歴シートを用い、その方の人生を少しでも理解できるように、それを基にご本人やご家族とより深くお話を聞き出す努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、バイタル等に目を通し、日々の状態を各職員が把握している。現状に変化があった場合には管理者、医師に報告し対策を考えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成前にご本人、ご家族にご要望をお聞きし、カンファレンス時に検討し、できる限りそれを生かした計画を立てている。常日頃、ご利用者様が口にされたことで気になる事は書き留めている。	モニタリング、計画の見直しを3か月に1回行っている。事前に本人、家族からの意見要望を聞き取り、計画作成者、管理者で担当者会議を開催している。更新された計画は職員が回覧し、確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入の際、特記的なことは文字の色を変えて個別記録に記入している。記録が多い場合は「特記事項用紙」を用いて、正確な記録がの向陽記録の書式を変更している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時は時間に関わらず、電話相談、臨時往診の依頼などをお願いしている。区で行われている行事や福祉会館での行事に参加できればと思います検討中。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気分転換、機能訓練を兼ねて近くのスーパー、薬局、100円ショップ等買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問看護、往診時にかかりつけ医と情報交換し、また電話での相談、必要であれば臨時往診なども行っている。必要な事があればご家族にもお時間をいただきお話を時間をいただいている。	月2回、協力医による訪問診療を受けている。24時間の連絡が可能。フロアごとに専門分野の異なる担当医が訪問している。訪問看護による健康管理は月2回行われている。認知症専門外来等への通院は家族に対応してもらっているが、必要時は柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気づいたことがあれば管理者に報告し、訪問看護、24時間看護師と連絡がとれるので、看護師から医師に伝えその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時にはグループホームでの生活状況が伝わるよう介護サマリーにて情報提供を行っている。入院中は電話や面会で連絡を取り、入院先での生活状況、本人の状態把握に努めており、それを介護職員にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、かかりつけ医と情報交換している。終末期が近くに予測される場合は、ご家族に来所していただき、主治医、ホーム職員と面談し、対応についての話し合いの場を設けている。	看取りは現在行っていない。入居時に、家族に説明をしている。重度化した場合は医療機関と連携を取り、事業所でできる範囲での対応を行っている。終末期ケアの研修は、年間研修計画に組み込んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」を各階に用意し、目を通すようにしてあります。訓練は今後の会議時に行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の施設の避難訓練の際に災害時の対策について職員に周知している。訓練に出席できなかったものにはプリント化し渡すようにしている。運営推進会議時に意見交換を行っている。	年2回、消防設備点検を実施し、避難訓練は年1回実施している。内容は職員間で検討し、訓練に参加できなかった者へは資料で周知している。備蓄は、水と食料を必要量確保している。保存期間を把握し管理している。	避難訓練(夜間想定含む)をはじめとする消防訓練等の実施回数は年2回以上望まれる。また、災害対策の強化に向け、地域協力関係を深める取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳、プライバシー保護の為、排便の状況や失禁時の対応などは他者の前で話さず小さな声で対応するようにしている。尊厳、プライバシー保護については会議時に研修し、欠席者にはコピーを渡している。	敬語の使用を基本にし、不適切な言葉遣いがあれば、その都度個別に注意をしている。居室はノックや声かけをし、許可を得てから入室している。申し送りの際には、声が届かないよう声量に配慮して実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設のお菓子を買物に行き選んでいただいている。入浴、朝の着替えは選べる方は自由に選んでいただいている。入浴拒否は次の日に回すなどしている。できる範囲内で自由選択していただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい方はご一緒し、室内で過ごしたい方は工作や歌などを楽しんでいただく。就寝時間は居室であれば21時以降でも自由にしていただいています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、選べる方は自由に選んでいただいている。自分でお化粧をされている方もいる。足りないものはご家族にお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事(盛り付け、食器洗い、拭き、片づけなど)の中から力量に合ったことをお願いし、参加していただいている。味見などもお願いする事がある。季節の料理は昔作った事等を思い出して頂けるような言葉かけを行いその場を楽しむ。	今年度、食の見直しを行い、宅食業者を変更して改善している。宅食内の献立には、行事食の提供もあり、季節感を楽しんでいる。入居者は、職員と共に盛りつけや下膳、片付け等を行い、自主的に参加している方もいる。時々ホットケーキ等の手作りおやつを実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ml以上の水分を食事から摂取できるようにし、足りない方は飲み物を換える、水分表を付け担当医に報告し脱水などが見られない様に配慮する。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人が不足していたので朝、夕の口腔ケアを行っていた。今後は職員が増えれば朝、昼、夕の口腔ケアを目指したい。ご本人が行った後介助している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方で、1階は3名、2階は4名ほど時間で誘導している。1名の方については以前より失禁がへっているが、後の方は完全介助。	できる限りトイレでの排泄を支援している。夜間、トイレ案内を継続することで、自力でトイレでの排泄が可能となった事例がある。便秘解消に、必要時には主治医へ状況報告をしたり、マッサージや保温をしている。水分摂取目標量を設定し留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、散歩に行ける方はいいがそうでない方は便秘の方が多く、水分摂取を増やす、入浴時にお腹を温める、マッサージするなどしているが薬で排便調節している方も数名いらっしゃいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回、ご本人の拒否がある場合は次の日の方と入れ替えをしている。温度、お湯につかる時間も希望を聞き、身体に影響がないように入浴していただいている。	基本は週に2回、午後の時間帯に入浴している。個浴で対応し、入浴順序の希望に応じている。入浴の拒否のある方に対しては、無理強いせず声掛けに工夫し入浴して頂くよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調、生活リズムを把握し、昼食後の休養、休みたいときに休んでいただくなどしている。10日に1度シーツの交換をし、清潔の保持をし、快適に眠れるよう湿度、温度の調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の指示に従い服薬していただいている。個人の服薬情報を個人ファイルで閲覧できるようにし、往診などでの薬の変更、頓服薬等は利用者様申し送りノートに記入し職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、散歩、洗濯干し、買物、工作、習字、喫茶、外食、外出などご本人が好まれる事を優先し、職員も一緒に楽しむ事で利用者様のいい表情が見られるような支援を増やしていきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は雨以外、毎日しているが全員とは言えない。ご本人の拒否や筋力低下であまり歩けない方は、玄関前のベンチに座っていただき日光浴などしていただいている。時間や人手があれば、買物にも行っている。地域の方との外出は残念だができていない。	希望に沿い、日常的に散歩へ可能な限り出かけている。また、屋外のプランターへの水やりを職員と一緒にしている。中庭が今後活用できるよう、木々の伐採等の手入れを実施している。喫茶や買い物等へ日常的に出かけられるよう、現在、体制整備を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	方針を変えるため現在は個人の買い物に行けていない。2月頃からまた再開する予定。立替えし、月末銀行引き落としにする予定。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人のご希望があれば、ご家族にご相談し許される範囲内で支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭殺菌剤の使用、汚物は必ず新聞紙で包む、窓のないトイレには扇風機を設置、室内は植物や絵を飾っているが、中庭については近いうちに整備し、外でもくつろげる環境を作る予定。思い出のある写真や家具、個人の大切な物を持ってきていただいている。	共用部は、畳状の座面ベンチが置かれ、彩光や照明は柔らかく落ち着いた空間である。手作りカレンダーは日めくりで、入居者が毎日更新している。ユニバーサルデザインが採用され、照明等のスイッチ高さが低く設計されている。入居者が家事に参加しやすいよう、家具、備品の配置や高さを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方であれば出入りは自由になっている。テレビやアルバムなど話のネタになる物を持ってきていただいたり、時には居室で気の合った方とティータイムを過ごしていただいたりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具や衣類、読んでいた本、ご家族のアルバムなどを持ってきていただき、居室の中をご本人が過ごしやすいようにしていただいている。	木目の天井、障子風のサッシに和風のペンダントライトと和室調である。各居室には洗面所が設置されている。自宅で使用していた家具や生活用品を持ち込み心地よく過ごせる居室となっている。乾燥時には濡れタオルを掛ける等、室内環境に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、一部床暖房、居室の表札、他入れやお風呂の表示などを作り、転倒事故等を招かないように環境整備をしている。			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500077		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームいだか		
所在地	〒465-0097 愛知県名古屋市長東区平和が丘1-109		
自己評価作成日	令和2年1月25日	評価結果市町村受理日	令和2年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人が変わり管理者も代わり、令和2年気持ちを新たに施設の立て直しをしています。家族のように温かい言葉かけをし、家庭的でゆったりとした雰囲気の中、家事等を利用者様と一緒にしながらの会話の中で利用者様の気持ちを受け止め「今したいこと」「したい生活」を目指し、計画を立て支援して行きます。また、中庭の手入れ、老朽化した箇所の修復をするなど環境整備も行っていきます。利用者様の楽しみとして地域の福祉会館を利用し行事に参加したり、喫茶、外食、外出などを計画。食事は「ワンクック食材」を利用し時間を短縮、少しでも利用者様との交流が増えるようにしていく予定です。自治会への加入、施設PRをし地域との連携にも努めていきます。社員の質の向上としては社内、社外研修を勧め、各医療との連携を取り安全、安心に生活して頂ける施設作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族主義」をモットーとし、「共に生きる」を基本理念とし利用者のご満足と笑顔を励みに仕事ができるよう、各フロア朝の申し送りに基本理念を読み上げ掲示し徹底している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。自治会のポスター張替を担い、自治会活動に協力している。散歩や朝のゴミ捨て時には挨拶をするなど交流するように心がけている。近隣のスーパーや100円ショップなどに買い物に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会役員の方や民生委員、包括の方にも参加して頂き現状を報告し、理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	可能な限り、運営推進会議で出た意見を施設の向上に結びつけるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の疑問や課題は市や区の健康福祉課等に電話し確認や相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	半年ほどの間に利用者の入れ替わりが多く、各ユニットの扉を施錠していることがほとんどである。1年前までは身体拘束委員会を3か月ごとに行っていたが現在は行われておらず、再開をしたいとは思っている。基本的に現在身体拘束をしている方はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のスケジュールに虐待の研修を組み込み職員に参加してもらうか、出席できない職員には資料を渡し学習してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方はおられないが、会議時に研修・勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更や解約、料金改訂の際はその都度ご入居者家族様よりご意見を伺い、理解、納得ができるよう説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、不満、苦情については管理者が直接対応し、ご家族様の対応は電話や面会時にお時間、時間を作っていただくなどお話をさせていただく様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	細かな意見を随時聞く様に心懸けている。検討する内容がある時は会議で話合うなどしている。東海支部の会議時にも他管理者の参考意見を聞くなどしている。契約更新時などにも話しをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間のある限り、管理者から部長に報告し話し合っている。いつも前向きな考えを持ち取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から部長へ随時報告している。派遣社員が多いためなかなかまとまった研修が行えず、会議時に代表者が研修を受け、それをプリント化し伝達するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じサンガグループの管理者会議、機会があれば区の事業所連絡組合主催の会議へ参加するなど同業者との交流をし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは統括部長が行い、入居前のサービス提供事業所からも情報を得、本人様の意向を伺いケアプランに反省させ支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは統括部長や管理者が行い、ご家族様からみたご本人のお話や困りごと悩みを伺いご相談させて頂いている。その都度電話や面会でも対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に本人やご家族が置かれている状況を把握し、ご要望を伺うと共に必要な福祉用具の把握、依頼、利用できる他サービスなどの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事、生活を共にし過ごすことで少しずつ信頼作りをしている。できること、したい事をしていただきできない事をお手伝いし、できたという達成感を味わっていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、面会時などで随時ありのままの現状をお伝えしご家族からも情報を得、少しでも面会時間を増やしていただくためにゆっくり話していただけるような環境作りを心懸けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様からの要望があれば、ご家族に相談し可能な範囲で支援している。お知り合いとの面会、手紙のやり取り、家族との外出、外泊など家族の協力を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置、食事やレクをする際、ストレスにならないよう職員が仲介をし配慮している。同フロアー、各階合わせたのレクリエーションで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了、亡くなられた方のご家族などには可能な限り関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が応えられる場合にはご本人にお伺いし、お応えできることはすぐに対応している。ご本人の要望で家族に伝える事があればお話しし、必要であれば相談にのりケアプランに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴、生活環境が分かるように独自の生活歴シートを用い、その方の人生を少しでも理解できるように、それを基にご本人やご家族とより深くお話を聞き出す努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、バイタル等に目を通し、日々の状態を各職員が把握している。現状に変化があった場合には管理者、医師に報告し対策を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成前にご本人、ご家族にご要望をお聞きし、カンファレンス時に検討し、できる限りそれを生かした計画を立てている。常日頃、ご利用者が口にされたことで気になる事は書き留めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入の際、特記的なことは文字の色を変えて個別記録に記入している。記録が多い場合は「特記事項用紙」を用いて、正確な記録がの向陽記録の書式を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時は時間に関わらず、電話相談、臨時往診の依頼などをお願いしている。区で行われている行事や福祉会館での行事に参加できればと思い検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気分転換、機能訓練を兼ねて近くのスーパー、薬局、100円ショップ等に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問看護、往診時にかかりつけ医と情報交換し、また電話での相談、必要であれば臨時往診なども行っている。必要な事があればご家族にもお時間をいただきお話をいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気づいたことがあれば管理者に報告し、訪問看護、24時間看護師と連絡がとれるので、看護師から医師に伝えその都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時にはグループホームでの生活状況が伝わるよう介護サマリーにて情報提供を行っている。入院中は電話や面会で連絡を取り、入院先での生活状況、本人の状態把握に努めており、それを介護職員にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、かかりつけ医と情報交換している。終末期が近くに予測される場合は、ご家族に来所していただき、主治医、ホーム職員と面談し、対応についての話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」を各階に用意し、目を通すようにしてあります。訓練は今後の会議時に行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の施設の避難訓練の際に災害時の対策について職員に周知している。訓練に出席できなかったものにはプリント化し渡すようにしている。運営推進会議時に意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳、プライバシー保護の為、排便の状況や失禁時の対応などは他者の前で話さず小さな声で対応するようにしている。尊厳、プライバシー保護については会議時に研修し、欠席者にはコピーを渡している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設のお菓子を買い物に行き選んでいただいている。入浴、朝の着替えは選べる方は自由に選んでいただいている。入浴拒否は次の日に回すなどしている。できる範囲内で自由選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい方はご一緒し、室内で過ごしたい方は工作や歌などを楽しんでいただく。就寝時間は居室であれば21時以降でも自由にしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、選べる方は自由に選んでいただいている。自分でお化粧をされている方もいる。足りないものはご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事(盛り付け、食器洗い、拭き、片づけなど)の中から力量に合ったことをお願いし、参加していただいている。味見などもお願いする事がある。季節の料理は昔作った事等を思い出して頂けるような言葉かけを行いその場を楽しくする。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ml以上の水分を食事から摂取できるようにし、足りない方は飲み物を換える、水分表を付け担当医に報告し脱水などが見られない様に配慮する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	人が不足していたので朝、夕の口腔ケアを行っていた。今後は職員が増えれば朝、昼、夕の口腔ケアを目指したい。ご本人が行った後介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方で、1階は3名、2階は4名ほど時間で誘導している。1名の方については以前より失禁がへっているが、後の方は完全介助。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、散歩に行ける方はいいがそうでない方は便秘の方が多く、水分摂取を増やす、入浴時にお腹を温める、マッサージするなどしているが薬で排便調節している方も数名いらっしゃいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回、ご本人の拒否がある場合は次の日の方と入れ替えをしている。温度、お湯につかる時間も希望を聞き、身体に影響がないように入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調、生活リズムを把握し、昼食後の休養、休みたいときに休んでいただくなどしている。10日に1度シーツの交換をし清潔の保持をし、快適に眠れるよう湿度、温度の調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の指示に従い服薬していただいている。個人の服薬情報を個人ファイルで閲覧できるようにし、往診などでの薬の変更、頓服薬等は利用者様申し送りノートに記入し職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、散歩、洗濯干し、買物、工作、習字、喫茶、外食、外出などご本人が好まれる事を優先し、職員も一緒に楽しむ事で利用者様のいい表情が見られるような支援を増やしていきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は雨以外、毎日しているが全員とは言えない。ご本人の拒否や筋力低下であまり歩けない方は、玄関前のベンチに座っていただき日光浴などしていただいている。時間や人手があれば、買物にも行っている。地域の方との外出は残念だができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	方針を変えるため現在は個人の買い物に行けていない。2月頃からまた再開する予定。立替えし、月末銀行引き落としにする予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があれば、ご家族にご相談し許される範囲内で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭殺菌剤の使用、汚物は必ず新聞紙で包む、窓のないトイレには扇風機を設置、室内は植物や絵を飾っているが、中庭については近いうちに整備し、外でもくつろげる環境を作る予定。思い出のある写真や家具、個人の大切な物を持ってきていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方であれば出入りは自由にしている。テレビやアルバムなど話のネタになる物を持ってきていただいたり、時には居室で気の合った方とティータイムを過ごしていただいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具や衣類、読んでいた本、ご家族のアルバムなどを持ってきていただき、居室の中をご本人が過ごしやすいようにしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、一部床暖房、居室の表札、他入れやお風呂の表示などを作り、転倒事故等を招かないように環境整備をしている。		